

令和4年度第1回子ども・子育て会議 未来子育て部会 会議録

令和4年11月16日（水）14：00～15：30

今治市役所 第1別館10階 101会議室

令和4年度第1回子ども・子育て会議 未来子育て部会 会議録（概要）

1 日 時 令和4年11月16日（水） 14:00～15:30

2 会 場 今治市役所 第1別館10階 101会議室

3 議 題

- ・部会長の選任について
- ・今治版ネウボラ「未来子育て支援機構」（仮称）の創設計画の進捗状況
- ・今治版ネウボラ拠点施設整備の基本構想について

4 出席者 【委 員】5名

泉浩徳委員（部会長）、龍田三津子委員、越智瑞啓委員、八木正史委員、田窪良子委員

【事務局】8名

こども未来政策局長、こども未来課長、ネウボラ政策課長、保育幼稚園課長、健康推進課長、ネウボラ政策課長補佐2名、ネウボラ政策課ネウボラ政策係主事

5 欠席者 【委 員】1名

村上ひかる委員

5 会議内容

事 務 局	当会議の開会
	部会長選任まで、事務局のネウボラ政策課長が会を進行。出席者は部会委員6名の内、5名出席。1名欠席。「今治市子ども・子育て会議条例第7条第2項」に規定する、半数以上の出席要件を満たしており、本会議が成立している旨報告。
	委員紹介・挨拶
	課長職以上の職員の紹介・挨拶
事 務 局	部会長の選任について、本会議は条例第8条3項により、部会長は、会長が指名すると規定されている旨説明し、会長である泉委員に部会長の選

	<p>任をお願いします。</p>
泉 委 員	<p>議題（１）部会長選任について、出席委員の意見を求める。</p>
越 智 委 員	<p>部会長に泉委員を推薦。 （他の委員の賛同を得て、部会長に泉委員決定）</p>
事 務 局	<p>部会長を泉浩徳委員にお願いします。 （議事進行を部会長へ委ねる）</p>
部 会 長	<p>挨拶</p> <p>会議録署名委員に龍田三津子委員を指名。</p> <p>議題（２）今治版ネウボラ「未来子育て支援機構」（仮称）の創設計画の進捗状況について、事務局から説明を求める。</p>
事 務 局	<p>資料１・２・３により説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今治版ネウボラ」のスタートに伴う相談・支援体制の状況として、こども未来部の組織体制、こども家庭支援室の設置、発達支援センターの集約 ・就学までの切れ目ない母子保健等の支援体制（伴走支援）として、産後ママと赤ちゃんのつどい・５歳児健康相談の検討 ・その他として、こどもが真ん中の視点で取り組む切れ目のない子育て支援に関する新規事業・拡充事業について、市広報誌の子育て支援特集について紹介。
部 会 長	<p>説明に対する意見・質問を求める。</p>
越 智 委 員	<p>市広報誌について、保護者のお母さん方からの評価やご意見は届いていますか。</p>
事 務 局	<p>広報について、若いお母さん方があまり広報を見られないという現状があるようですので、様々な観点から情報発信をしています。特に好評なのが、フリーペーパーのis、マイタウンなど街のイベント等の情報発信に関しては非常に敏感です。その中に掲載することによって、子育てに関する</p>

	<p>各種施策も認知していただいていますので様々な情報媒体を活用しながら、広く普及利用に努めていきたいと考えています。</p>
越 智 委 員	<p>企業が子育てをしやすい環境づくりをという風潮の中で、今治市内の企業の経営者向けにも、子育てに関する制度や支援策についてペーパーやSNSで情報発信をしていくのも1つの方法かなと、またご検討いただきたい。</p>
事 務 局	<p>県でもイクボス（ひめボス）宣言や、厚労省のくるみんななどの活動もありますが、今治市の中小企業には難しいところもあるかと思います。これから県が企業に対する女性活躍の取り組みに力を入れていくという話もありますので、足並み合わせて出来ることを模索していきたいと思います。</p>
田 窪 委 員	<p>広報のデザインが一新され、若いお母さんにもとても見やすくなったと思います。こういった広報の子育て特集記事を、ポスター代わりに掲示できるのがいいなと思っています。広報に折込されていた子どもの虐待に関するチラシもとても分かりやすかったです。企業向けに配布するとなっても、お母さんもお父さんも読みやすいと思うのでいいアイデアだと思いました。</p> <p>広報の原稿中に、「思春期ふれあい体験教室」とありますが、このネーミングと内容にギャップがあるように思えます。</p> <p>ネウボラ政策課の中に、相談支援業務が集約されたことはとてもいいと思いました。そこで、どのエリアからどのような相談が、どういった立場・世代の人から寄せられているというような統計がとれれば、どこに支援を重点的に置かなければいけないということが考えられるかと思いますが、検討されているのでしょうか。</p>
事 務 局	<p>1つ目の、思春期ふれあい体験教室については、中学3年生を対象に赤ちゃんの人形等を使ったふれあいをということになりますが、ネーミングを事業化の中で検討させていただければと思います。</p> <p>2つ目については、ネウボラ政策課に窓口を集約したことで、様々な情報が横の繋がりに対応できている状況にあります。しかし、ケースごとに対応をしているということもあり、エリア的に分析というところまでは残念ながら至っておりません。今後必要なサービス提供をする中で、そういった観点も必要かと思いますので参考にさせていただければと思います。</p>

龍 田 委 員	<p>こども家庭支援室の「会計年度」というのは、臨時職員のことでしょうか。ずっと継続して経験を積んでいってもらえるといいかなと思いました。</p> <p>ネウボラ政策課で、この相談窓口を設けられていい計画ではあると思うのですが、本庁内だけではなく、支所管内にも窓口、もしくは出前相談というかたちでも相談ができますよという窓口を作っていただきたいと思います。</p>
事 務 局	<p>まさしく、ネウボラ計画のサテライトの充実というところになるのかなと思います。どのような形で実行に移していくのが最大の検討課題というところで動いておりますが、出ていけるような相談・支援が出来る方の育成も含めて今後どのように進めて行くか、引き続き皆さんのご意見頂戴しながら、実現に向けたステップを踏んでいければと思っています。</p>
部 会 長	<p>児童虐待対策やヤングケアラーについて子ども家庭総合支援拠点の中にいろいろ専門家、保健師、保育士はいるけれどソーシャルワーカーが抜けているんですが、これは何か理由があるのかなと。児童相談所でも保健師が社会福祉士を担ったりしていますが、保健、医療、教育保育、福祉、心理等連携するべきだと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
事 務 局	<p>今の人員については、行政が持つ人的リソースがどうしても従前より保育士、保健師あるいは教員といったところの中で、採用の枠として社会福祉士はこれまでございませんでした。一般事務職が自分の業務上必要ということで社会福祉士等の勉強をしているというような状況でございます。ただ今後、福祉との連携含めて、必ず必要な人材だと思っている中で内部での育成含め、外部登用等今後検討していきたいと思っています。龍田委員からご意見がありました、会計年度で外部から任用するというのは、非常に役立つのですが、決して 1 年限りということではありません。キャリアは積んでいただかないといけない中で、行政職員はどうしても人事異動を伴いますが、会計年度職員であれば、引き続き来ていただけるような場合メリットもあります。そういった人材の育成、サテライト含めての対応が今後できれば良いと思っています。</p>
部 会 長	<p>専門家はいるが、つなぐ人がいない。つなげてコーディネートしていくのが福祉関係者の役割ですので、ぜひそういう方を入れていただきたいと思います。</p>
事 務 局	<p>議題 (3)「今治版ネウボラ拠点施設整備の基本構想について」説明を求め</p>

る。

資料 4 により説明。

- ・基本理念は、「すべての子育て世帯に寄り添い、切れ目のないきめ細かなワンストップでの総合的な支援を行う」こと。

- ・基本方針は、0 歳から 18 歳までの切れ目ない支援、市内各所に点在する子育て関連施設の集約、気兼ねなく相談できる場の創出、大人も子どももわくわく楽しめる魅力の創出の 4 つ。

- ・コンセプトは、全ての子育て世帯が安心して交流し気兼ねなく相談できる場所。成長や発達過程に応じて支援を必要とする人に必要な支援が提供できる場所。大人も子どもも多世代が集いわくわくと子育てを楽しめる場所。

- ・市域の広さをカバーする子育て支援体制を構築するため、市全体で子どもが真ん中の子育て世代に寄り添った環境づくりを進め、相談及び情報発信のサテライトのみならず、公園なども遊び場サテライトとして充実させるとともに、その中核としてこのネウボラ拠点施設を位置付けるもの。

- ・施設整備のイメージとしては、「今治版ネウボラ」のコア機能である「こども家庭総合支援拠点」や「子育て世代包括支援センター」、「発達支援センター」、「中央保健センター」などの行政機能や、「地域子育て支援拠点事業所」や「今治ファミリーサポートセンター」、「一時預かり機能」など各種の子育てを支援する施設や拠点を集約整備して一体的に運営することで、様々な相談にワンストップで対応し、多機関による支援体制の中核を担う。また、地域ぐるみで子どもを育てる機運を醸成するために、地域の人や団体、企業など多様な主体が交流できるように、「児童館機能」や「公民館機能」など公共施設との複合化も視野に検討する。

- ・整備場所は、子育て関連施設等との複合施設として、本庁等関連機関との機能連携や、市域全域から日常的にアクセスが容易であることや、コンパクト・プラス・ネットワークの観点から、市内中心部において適地を選定する。

- ・付加価値機能は、庁内プロジェクトチームによる様々な先進事例の調査を踏まえて検討する。

- ・整備する主な機能は、子育て世代活動支援センター（こども家庭総合支援拠点、子育て世代包括支援センター、発達支援センター、地域子育て支援拠点事業所、ファミリーサポートセンター、一時預かり）、中央保健センター、児童センター、地域交流センターの 4 つの機能を有する複合施設

	<p>を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもが真ん中親会議やWEB アンケートにより、市民意見やニーズを収集。 ・今後の検討スケジュールとしては、今年度中の基本構想の公表に向けて、今治版ネウボラの推進の専門部会である、当未来子育て部会において、施設整備の基本構想について、審議・調査研究を進め、2月中下旬を目標に、部会報告としての原案を子ども・子育て会議に提示、そのうえで、子ども・子育て会議による基本構想（案）の答申をいただく予定。
部 会 長	説明に対する意見・質問を求める。
八 木 委 員	<p>今治は市域が広く、それぞれの地域の拠点で役割を果たすということも大切。その中心となる拠点を作るにあたり、中央保健センターや児童館の規模や機能について、現状がどうなのか、欠けているところがあるのか、十分なのか、それぞれの地域でどうなのか、集約することによってどう良くなるのかを教えていただきたい。選定地についても、駐車場のことなど専門家の意見を集約しよりよいものを作っていただきたいと思います。</p>
事 務 局	<p>現状としては、子育て施策の展開としては、一通りのサービスの提供が実現できていると思う中で、これらの機能が順次整備したことで、市内各所に点在している。今あるサービスをいかに集約化するか、そういった観点から一緒にすることで、スケールメリットを生かしながらワンストップの対応を目指していきたい。その中で、これまで充実していない部分、この機会にぜひ実現すべき機能などについてもご意見いただけたら実現を目指し頑張りたいと思っています。</p> <p>選定地については、どうしてもこれから人口減少の中で様々な都市機能が集約されていかなければならない部分もあり、拠点だけでないサテライトも含めて広域なカバーができる、そのための中心的な役割を併せ持つ形で検討できればと考えています。</p>
八 木 委 員	どこか空いている施設を利用するといった計画はございませんか。
事 務 局	<p>既存施設の有効活用、リノベーション等は財政的負担を考慮して、当然のご意見だと思います。今回整備しようとする複合施設は、ある程度の規模感が必要になってくる中で、遊休公共施設や民間施設等の利用も含めても、少しスペースの確保が難しいのではないかと考えております。あわせて、</p>

	<p>そのような施設はいずれもかなりの築年数が経過しており、これらを子どもたちの拠点として利用するには、耐震性の確保や、設備面の改修が必要であり、そのあたりの効果検証、比較考量などもあわせて進めていきたいと思っています。</p>
越 智 委 員	<p>資料４の２図に、幼稚園が抜けているので加えていただきたい。</p> <p>ネウボラ話を進めていくうえで、少子化という大きな波がやってくる。子ども・子育て会議でもお話したが、イオンモールの空きスペースを活用すれば、島しょ部からも橋を渡って来るのにも近くていいかと思う。伯方にもつくるという発想も良いと思う。少子化対策という観点からも、活気のある今治の街がにぎわうことも考えるべきだと思います。</p> <p>また、空いている小学校なども利用できるのではないかと思います。全面的に新しい施設を作ったらいけないというわけではないが、そういった空き施設の利用も考えて、はじめてみるのがいいのではないかと思います。</p>
部 会 長	<p>イオンさんもいろいろ計画を立てていらっしゃるって、大学の方にも、今後市街地のイオンをどのようにしていくかと、いろいろなところで考えていらっしゃるようです。</p>
越 智 委 員	<p>京都のイオンモールで 0,1,2 歳児が遊べるフリースペースを作っているというのを聞いています。</p>
部 会 長	<p>大学の幼児教育とイオンさんが連携してやっているのでは是非見ていただきたい。</p>
事 務 局	<p>今、ショッピングモールや児童館もコロナ禍でお客さんがいらっしやりにくいということもあり、アウトリーチの中で、おでかけ児童館を試験的に展開はしていますが、今の状況をどのような形でご利用いただけるのか引き続き調査研究を盛り込んでいきたいと思っています。</p>
部 会 長	<p>大学にも、遊休地や空き教室がありますのでぜひ利用検討いただければと思います。</p>
田 窪 委 員	<p>一元化した新しい建物が必要かと言われると、今までのもの、人を使いそれぞれの場所に必要な機能というのは置いておかなければならないと</p>

	<p>なった時に、経済的なものを含めてバランス的にどうなのかと思う。</p> <p>伯方のケースでいうと、古い保育所を使いながら、いろいろな方々が入りすると機能的にも充実してくる。1ヶ所に専門機関を置かなくても、それぞれサテライトにもある程度解決できる力量のあるスタッフがいながらも、最終的に一元化されたところに行けばきちんと解決できるというのが理想だと思う。そこで、機能の集約とサテライトをどう置くかというのは、市の財政状況も直結している問題だと思うので、やはりいかにコンパクトなものを作るかということをもう少し考えていただいた方が良いと思う。一元化することで、余った人員をどう配置するかということで専門的な方をサテライトに配置するということもあるかなと思います。</p>
部 会 長	<p>コンパクトに、今ある空き地を利用する、また島しょ部にも必要ですよ。老人版の包括支援センターを参考にしながら、連携していければと思う。なかなかワンストップで地域集約しても難しいのではないかと、リソースはいっぱいあるけど、誰が繋げて情報共有してどのように連携していくのだろうと思うのですがどうですか。</p>
事 務 局	<p>大学さんの立場でいうと拠点施設に関わってくる多機関連携という部分、全体を取り巻く環境の中で、関わっていく人的リソースというところも含めて関わりが生まれてくると思います。集約といっても、今、地域にあるものを全部吸い上げてというよりは、市街地にある老朽施設の集約、例えば今コンピュータカレッジに発達支援センターがありますが、組織体制としてはネウボラ政策課に集約されましたが、出先ということで別の場所にあることによる連携が非常に難しい問題があります。子育て世代包括支援係についても、ネウボラ政策課に集約しましたが、母子健康手帳の交付はネウボラ政策課、地域担当の保健師はいまだに中央公民館にある保健センターにおり、情報をペーパーでやりとりしながら一緒に赤ちゃん訪問などに行っております。ソフト面での組織的な庁内連携は体制をとったが、お母さん方に来ていただいたら、本当は一つで済ませたいにもかかわらず、やはりあっちこっちに行かなければならない。それぞれの施設がもうすでに老朽化して、それぞれ建て替えが必要な時期が迫ってきています。それぞれを個別に建てていくのはいかなものかと。また、中高生の居場所なども確保したいというような新たなニーズもある中、集約をすることによるスケールメリットの生かし方を考えていきたい反面、各支所、幼稚園、保育所、など今あるいろいろな園の運営の中で、サテライト機能を担っていただかなければならない部分について</p>

	<p>は、今後フォローアップする形で人材の育成を含めて、市と連携しながらできるのか、あわせて課題として考えておりますので、島しょ部から、あるいは陸周辺部からリソースを吸い上げてここに集約するのではなく、それぞれのサテライトを充実させることとあわせてシンボルとなる拠点というものを整備したいというのが、私どもの思いです。</p>
部 会 長	<p>地域福祉の担い手となる社会福祉協議会がこの中に入っていないが。</p>
事 務 局	<p>発達支援の方で機関などを担っていただいている関係もあり、緊密な連携をとらなければならない。そういう中で、子どもの居場所というよりは子どもを支える多機関連携の方で、大学と同様、関りは不可欠かと思っています。</p>
部 会 長	<p>ぜひ岡山理科大さんも含めて、大学をネウボラ拠点サテライトのソーシャルリソースの中に入れていただければと思います。</p>
田 窪 委 員	<p>既存の機関のことで、市民の声をお伝えします。まずファミサポについて、実際稼働しているかどうか行政職員でさえも分からない、運用も実績があまり大きく知らされていないということもあり、伯方で何年かぶりに 1 件利用があったというのを聞きました。もっとアピールができればいいかと思っています。</p> <p>発達支援センターに関して、学校長の依頼があってから検査や巡回相談に行くとお伺いしています。ただ、学校の方針によってスムーズに繋げる場合、そうでない場合があるということも聞きました。学校の先生方の発達支援センターの利用の仕方は十分周知されているのかなと思いますが、保護者に対して、どういうふうに発達支援センターがお母さんをサポートできますよということをお伝えできるのかというのがポイントになってくると思います。</p>
こども未来課長	<p>ファミリーサポートセンターですが、現在は放課後児童クラブや塾の送り迎えによく利用されています。島しょ部においては提供会員になっていただける方がなかなかいらっしゃらないということをお聞きしていますが、陸地部ではかなり利用されているようです。実際は提供会員と依頼会員のマッチングがあり、合わなければ成立しない案件にはなりますが、もっとファミサポの PR をしていきたいと思っています。</p>
事 務 局	<p>発達支援センターに関して、学校からの検査依頼の話は多分にあります。</p>

	<p>特に就学前教育相談を機に発覚し、心配でということで検査に来られることがあります。議題2でもお話させていただいたように、「5歳児健康相談」というような体制を新たに構築しようと考えています。できるだけ早期のタイミングに、お母さん方をよりよく導けるような体制が取れないか。ただ、非常に難しい問題を抱えていますので、様々なご意見を頂戴しながら試行的に進めつつ改善に向けてスモールスタートが切れたらいいのかなというのが現状です。</p>
越智委員	<p>赤ちゃんが生まれたときに、何かチラシはもらうんだけど結局見る機会がその時だけで終わってしまう。以前から、子育て支援課の前にチラシを貼っているだけでは保護者がここへ来なければわからないということをお話ししていますが、この状況が続いた結果このようなことが起こっている。ネウボラの考え方ですと、例えば何か月かごとにライン等で「子育て困ってませんか、こんなサポートがありますよ」と一言送ることで、保護者が制度を利用するきっかけになるのではないかなと思う。</p> <p>発達支援センターに関しては、いまだに自分の子は障害を持っていない、そういうところには行きたくない、手帳を持つというのがなんだか嫌だなと感じる人もいます。だから、発達支援センターがネウボラの中で伴走型という言葉を使えば集約する意味では大きいと思う。一番は宣伝をする、宣伝をして周知ができるという方法を、待っていちゃだめ、こちらから出向いていって言いましょう、ネウボラはおせっかいという役もあってもいいかなと思います。</p>
部会長	<p>そのとおりアウトリーチして、ここに来られない方の問題を読み取っていただきたい。声に出せない方がいっぱいいらっしゃる。おそらく情報を知っても来られない方もいるんじゃないかなと思う。ぜひそのあたりも周知の方法もそうですが、困っている貧困のお母さんや、繋がりができにくいお母さんのところにアウトリーチできるよう、保健師さんだけでなく専門家も一緒に行っていただきたいなと思う。</p> <p>また、こういった専門家の方がたくさんいらっしゃるの、ぜひ研修会などで子育ての楽しさなど共有したいと思います。</p>
八木委員	<p>学校でもメール連絡網である、「マチコミ」なども活用して定期的に情報を発信する手もあろうかと思います。</p>
事務局	<p>なかなか市の方は情報発信しているつもりでも、届いていないという実</p>

態を改めて痛感しております。各種媒体の活用という中で、ご紹介いただいた媒体もぜひ活用の一つとして、今ある良いサービスがお母さん方の活用に繋がるように頑張ってまいりたいと思います。

次回は、1月中下旬ごろにご案内させていただきます。今回の内容等で、気になる部分ございましたら、中間でも、事務局の方まで、いろいろご意見もいただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

当会の閉会

会議の経過を記載し、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

部会長 泉 浩徳

署名委員 龍田 三津子